

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2020年1月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2020年1月15日～1月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 123社
- 回収率 61.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より9.5ポイント悪化の▲26.0となった。

2017年9月以来29ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲29.2、当月と比べ3.2ポイントの悪化が見込まれる。

旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2019年 8月	9月	10月	11月	12月	2020年 1月	先行き見通し 2020年 2月～4月
業況	▲16.1	▲17.1	▲20.0	▲25.2	▲16.5	▲26.0	▲29.2
売上	▲3.2	▲4.1	▲14.1	▲26.0	▲22.3	▲20.4	▲26.1
採算	▲12.1	▲12.2	▲15.8	▲26.1	▲19.0	▲20.4	▲23.5
仕入単価	▲29.9	▲34.1	▲39.2	▲40.7	▲35.5	▲34.2	▲36.6
販売単価	2.5	4.9	13.3	2.6	5.8	4.9	2.5
従業員	35.5	36.6	40.9	29.4	31.4	30.9	30.9
資金繰り	▲7.3	▲4.9	▲6.7	▲4.2	▲6.6	▲6.5	▲10.6

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2019年 8月	9月	10月	11月	12月	2020年 1月	先行き見通し 2020年 2月～4月
建設	▲6.7	▲16.1	▲20.0	▲30.0	▲17.2	▲13.8	▲31.0
製造	▲19.3	▲13.8	▲11.1	▲26.6	▲7.1	▲31.1	▲24.2
卸売	▲12.0	▲4.1	▲11.5	▲17.4	▲12.0	▲18.5	▲22.2
小売	▲15.8	▲16.7	▲35.3	▲26.3	▲21.0	▲36.8	▲31.6
サービス	▲31.6	▲38.1	▲30.0	▲23.5	▲30.0	▲36.8	▲42.1

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革対応のあるべき姿が見出せない。4週8休をベースに考えると営業活動に支障が生まれ採算も落ち、新卒に敬遠され長期的に行き詰る。マスコミも役所に4週8休ばかりを強調しないでほしい。（総合工事） ・生き残るためには、現状の変化（イノベーション）が急務となってきた。しかし世界が進む方向に逆境することは避けられないため、各社のSDGs（持続可能な開発目標）の取り組みを把握したい。（設備・その他） ・建築業界は仕事が少ない（本州・道内共）。（建築）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・紙（印刷用紙）生産メーカーでも出荷量の前年対比のデータが80%台となっており、紙媒体が減少している証明である。（印刷） ・製造品構成による1月・2月は売上額が減少。設備投資は1月で完了した。3月未完了の物件向けの製造品があり当面の受注は順調である。昨年末に定年退職者・自己都合退職者各1名があり、工事生産能力に多少不足感がある。（金属窯業他） ・政府に消費増税対策を拡充してほしい。景気の腰折れが心配。（金属窯業他）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・雪不足と消費者の買い控えの影響、ネット販売の増加。（繊維） ・前年度とほぼ同等の業況。（機械鋼材） ・1月後半に入り灯油の販売価格が上昇しており、当面は現状のまま推移するものと思われる。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・1月2日新年初売りウインターセール初日前年は売上高100万円以上販売していたが、まったく振るわず前年の50%にとどまった。3日・4日・5日累計でも前年の50%となり、今後1月売上の確保の為、対策を考える必要がある。シーズンを通してアウトレット店及びネット販売が影響していると思われる。（衣服見回品） ・中東情勢が不安定なため、原油価格が3ヶ月連続上昇し採算性が低下した。降雪量が少なく除雪・排雪の燃料油消費量が減少。（その他）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の新型肺炎が北海道札幌市で見つかり、旅行者にジワジワ浸透している。ホテルに宿泊せずに帰る旅行者とキャンセルが増加。2月・3月・4月は苦戦する。（理美容・クリーニング） ・インバウンドの入込に売上が左右される。（ホテル・旅館） ・仕事の幅を広げるために最新測定機器の導入を検討中。（その他） ・増税後、最初の1ヶ月は影響がなかったが、12月・1月の売上減少が激しい。クレジットカード等のキャッシュレス支払の割合が増え、3%強の手数料も利幅減に繋がっている。（飲食） ・乗務員不足は異常事態であり現状では即存生活路線の維持継続が困難。限界の状況である。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI3.4 ポイント悪化、採算 DI3.4 ポイント改善、仕入単価 DI 横ばい、販売単価 DI10.3 ポイント悪化、資金 DI6.9 ポイント改善、従業員 DI13.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 3.4 ポイント改善となったが「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、設備・その他 9 ポイント悪化、総合工事 14 ポイント、建築業 8 ポイント改善となった。人手不足の影響があるとの声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI25.5 ポイント改善、採算 DI3.0 ポイント悪化、仕入単価 DI5.0 ポイント改善、販売単価 DI2.9 ポイント改善、資金 DI14.0 ポイント悪化、従業員 DI6.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 24.0 ポイント悪化となった。業種別では、印刷・出版 10 ポイント改善、食料品 19 ポイント、家具・木材 37 ポイント、金属窯業他 40 ポイント悪化となった。設備投資・リースの検討との声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI0.6 ポイント改善、採算 DI7.1 ポイント悪化、仕入単価 DI9.5 ポイント改善、販売単価 DI11.4 ポイント悪化、資金 DI0.9 ポイント改善、従業員 DI13.0 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.5 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 14 ポイント改善、繊維・衣服等 17 ポイント、機械鋼材 25 ポイント、その他 14 ポイント悪化となった。設備投資、リースの検討との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI5.2 ポイント改善、仕入単価 DI10.5 ポイント悪化、販売単価 DI26.4 ポイント改善、資金 DI5.3 ポイント改善、従業員 DI5.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 15.8 ポイント悪化となった。業種別では、衣料品、食料品横ばい、その他 43 ポイント、自動車 14 ポイント悪化となった。前年度とほぼ同等の業況との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI22.1 ポイント悪化、採算 DI6.8 ポイント悪化、仕入単価 DI2.1 ポイント悪化、販売単価 DI5.5 ポイント悪化、資金 DI4.2 ポイント改善、従業員 DI13.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.8 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング 200 ポイント改善、その他、運送横ばい、ホテル・旅館 23 ポイント、飲食 25 ポイント、整備業 50 ポイント悪化となった。天候が良い影響か年明けから売上が上がってきているとの声も寄せられている。</p>